

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

# 音楽科

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	実践発表校一覧、指導者名・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	実践発表と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2
IV	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	3
V	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	3

## I 研究テーマ

「生徒自ら音楽活動の楽しさを体感し、生涯にわたって音楽に親しんでいこうとする心情を育む支援はどうあったらよいか」 ～表現及び鑑賞の幅広い活動における〔共通事項〕の指導～

## III 実践発表校一覧、指導者名

第1分科会	指導者	牛越 雅紀 先生	(中信教育事務所主任指導主事)
	世話係	渡邊枝里香 先生	(信州大学教育学部附属長野中学校)
第2分科会	指導者	小町谷 聖 先生	(長野県総合教育センター専門主事)
	世話係	五味 誠	(信州大学教育学部附属松本中学校)

### 【第1分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那	15	飯田東中	音楽を形づくっている要素を知覚し、その要素と歌詞の内容や作曲者の思いを関連づけながら、自分の曲に対する「思い」を深め、友とかかわり合いながら表現を工夫することのできる指導のあり方
2	長野上水内	32	附属長野中	楽曲から感じたイメージや自己の心情を歌唱で表現する力を高める指導の在り方
3	安曇野	1	穂高東中	鑑賞領域 楽曲の感情表現を音楽の要素をもとに追求するあり方について
実践発表者3名、その他2名 計5名				

### 【第2分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那	10	泰阜中	楽曲や友とかかわり合いながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習
2	更埴	2	戸倉上山田中	生徒が生き生き取り組むことができるアルトリコーダーの指導法
3	更埴	4	更埴西中	生徒が楽曲に対する思いを大切にしながら、お互いにかかわり合い、表現することの楽しさを味わえるような音楽学習のあり方について
4	松本	25	附属松本中	音楽の魅力に触れ、友との繋がり深めながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習
実践発表者4名、その他2名 計6名				

## III 実践発表と協議内容

### 【第1分科会記録】

#### 1 飯田東中学校 小川先生の実践発表

「音楽を形づくっている要素を知覚し、その要素と歌詞の内容や作曲者の思いを関連づけながら、自分の曲に対する「思い」を深め、友とかかわり合いながら表現を工夫することのできる指導のあり方について」

##### (1) グループ内で話し合われたこと

- ・ 思いをどう〔共通事項〕と関連させて工夫させていくかが課題。
- ・ 10小節の中でも強弱による変化から生まれる効果を実感し、そのよさを語ることが大切。

##### (2) 指導者からのご指導

- ・ 音楽が嫌いな生徒でも分かる楽しい授業にしていけるためには、音楽の構造は教えた上で、その部分に対して、「どうしてだろう」や「どうしたい」といった問いかけが、有効である。
- ・ 仕組みが分かる → どう歌えばよい? → それは、〇〇な感じだから → こう歌いたい

#### 2 附属長野中学校 渡邊先生の実践発表

「楽曲から感じたイメージや自己の心情を歌唱で表現する力を高める指導の在り方について」

##### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・ 歌唱と鑑賞、歴史的背景を関わらせながら題材を展開するよさを感じる。
- ・ 様々な工夫を考え、それを歌い表しているが、日々どのような指導を積み重ねているのか。
- ・ クラスや学年合唱を工夫した時、色々な表現を最終的にどうまとめるか困っている。

(2) 指導者からのご指導

- ・意見が割れる場面は、学びを深めるチャンスである。2つの表現を、聴き比べたり、歌い比べたりして思考し、考えをもつことが大事。最終的に、両方の表現のよさを知った後であれば、どのような決め方でもよい。1つにしていくか、折り合いをつけていくか、多数決で決めるのか。

3 穂高東中学校 丸山先生の実践発表

「鑑賞領域 楽曲の感情表現を音楽の要素をもとに追求するあり方について」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・ベートーヴェンとプロコフィエフが同じ「葬送行進曲」をテーマに作曲した楽曲を聴き比べる。
- ・どちらか一方しか聴いていなければ、ここまで深い学びにはつながらなかったのではないか。

(2) 指導者からのご指導

- ・時代や国の違い、文化や歴史との関わりを考えることのできる曲は教科書の他にも多くある。
- ・何を比較するのが重要。例えば、同じテーマ。演奏家。ワルツ（形式）これをどの時期に、どの楽曲を選ぶかは、教師のコーディネート力である。

【第2分科会記録】

1 泰阜中学校 鈴木先生の実践発表

「楽曲や友とかかわり合いながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習について」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・模範の演奏動画を自由に見ることができる環境作りの配慮がよい。
- ・文化譜、三味線ならではの響き、余韻の大切さ、合わせるときのかけ声などの魅力から、自主的な活動となっていた。

(2) 指導者からのご指導

- ・器楽の技能としての落としどころではなく、日本音楽を感じる活動になっていてよい。
- ・研修等で先生方が、日頃から触れる機会をもち、様々な音楽の世界を知ること。先生自身が、その日本音楽を好きになり、自分で開拓、教材化する。

2 戸倉上山田中学校 志賀先生の実践発表

「生徒が生き生き取り組むことができるアルトリコーダーの指導法について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・アルトリコーダーの指導に創作の内容を。4人グループでベース音、合いの手、旋律（主題とその反復・変化）を考える。苦手な生徒はベース音、合いの手の演奏ができる。ワークシートに注目がいきがちだが、音を大切に、即興的に演奏して考えることを大切にしたい。

(2) 指導者からのご指導

- ・小学校での即興的な活動の上に中学では、創作を積み重ねていく。
- ・全部アルトリコーダーでなく、バス、ソプラノリコーダーや、木琴で演奏するなどよい。
- ・音や音楽で課題を把握することが大切。

3 更埴西中学校 柳澤先生の実践発表

「生徒が楽曲に対する思いを大切にしながら、お互いにかかわり合い、表現することの楽しさを味わえるような音楽学習のあり方について」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・「フーガト短調」実際にパイプオルガン協会の方に弾いてもらった動画で鑑賞し、それぞれの声部を実際に分かれて歌ってみる活動。

(2) 指導者からのご指導

- ・動画を撮ってきたことがよい。教科書のことを全部やらなければという思いより、子供たちの実態、どこに魅力を感じているかを大切に考えていくとよい。

4 附属松本中学校 五味先生の実践発表

「音楽の魅力に触れ、友との繋がりが深めながら、表現する楽しさを味わう音楽の学習について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・創作のどこを大切にしていくか。一単語を重ねていくやり方、リズムを変化させるやり方など、色々なリズムの作り方があがる。
- ・マグネットとホワイトボードを使う、音符ごとに色を変えるなど。言葉を目立たせる。

(2) 指導者からのご指導

- ・繰り返しの変化を使ったアンサンブル作りでは、「ことば」をどう考えるか、目立たせるためにどうするかが重要。言葉の数を減らすことや強弱を工夫するなど、音楽的な見方考え方を働かせて考えたい。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 渡邊 枝里香

## V 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしいテーマであり、よいと思います。</li> <li>・体感していく授業こそ大切だと思います。</li> <li>・どの分野の授業でも〔共通事項〕の指導をどうするかが大切だと思うのでよい。</li> </ul>
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〔共通事項〕の指導という部分は、定着しつつあるように感じられるが、それを「楽しさ」につなげる手立てを講じていきたい。</li> <li>・生涯にわたって音楽に親しめる心情を育むためには、技能にこだわらず音楽を聴いたり、歌ったりすることを通して楽曲が持つよさを見つけて、それを他の曲にも応用できる力を付けることが必要だと思う。</li> <li>・学習指導要領も変わるので、「確かな力」「資質能力」の関係でのテーマへ変更していくとよい。</li> </ul>
○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しっかりとしたレポートを持っていかなければならない」というプレッシャーを感じるものがなく参加できることがよい。</li> <li>・実践発表では、先生方の日頃の教材研究の成果が表れているレポートばかりで、今後、生かしていきたいと思えるものばかりだった。指導者の先生を含め、参加した先生方と日頃の授業の様子や悩みについて語り合えてとてもよい時間になった。</li> <li>・主事の先生から自分の実践について、ご指導いただき勉強になった。</li> <li>・若い先生方が多いので、ベテランの先生方の実践が増えるとよい。</li> <li>・あまり勉強する機会のない能や雅楽の体験はとてもいい貴重な経験、勉強となった。</li> <li>・ワークショップでは、普段の授業研究で追いつかないような部分を学ぶことができ大変参考になった。</li> <li>・午前分科会、午後実践発表、ワークショップという内容での運営は、今後、参加者も積極的に参加しやすくなるのではないかと思う。</li> <li>・以前は、午前・午後ともにレポート発表で少し疲れた記憶がある。しかし、今回のように午後にワークショップがある方が楽しく自分も参加できよかったですと思います。今回のような方法で継続してほしい。</li> <li>・主事の先生方に全国の実践等の紹介をしていただいたり、体験的な活動を企画していただいたりしてもよいのではないか。</li> </ul>
○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール、FAX、電話等で丁寧に対応してくださりよかったです。</li> <li>・お忙しい中、こまめに連絡をとってくださり、通知を送ってくださりよかったです。</li> </ul>
○その他、運営全般にかかわって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズな運営でした。</li> <li>・今年のような形でしたら、来年度以降も学びに参加したい。</li> </ul>

## V あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導のあり方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の牛越 雅紀先生、小町谷 聖先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、音楽教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 渡邊枝里香  
副委員長 五味 誠